

# すみれ通信 100号



すみれ通信は、医療・介護に携わる方に発信しています

〒 251-0032

藤沢市片瀬339-1

藤沢市医師会館

在宅医療支援センター

☎ 0466-41-9980

Fax 0466-41-9981

メールアドレス fuji-zaitaku@movie.ocn.ne.jp

10月



## すみれ通信 100号記念



祝

今回は100号を記念して元医師会会長と歴代の在宅医療支援センター長にお言葉を頂きました。

### 元医師会会長 武内鉄夫



すみれ通信100号の発行、お祝い申し上げます。平成27年6月に在宅医療支援センターの開設以来、医療と介護の調整役として各関連団体間の連携業務や相談事業、更に在宅医療に関する情報の発信、研修会などを積極的に開催してこられました。

すみれ通信はこれらの内容についても報告し情報提供の場として多くの方々から支持支援されてきました。100号に至るまでのスタッフ皆様のご苦勞に敬意と感謝を申し上げます。

在宅医療における医療と介護の連携は、2025年を迎えるにあたりますます重要になってきます。医療から在宅、在宅から医療のスムーズな流れを構築するためには調整役としての支援センターの役割が一段と重要になります。

各団体、組織との調整のみならず、市民の一人一人の方のニーズにあった相談への対応も大事になっています。市役所や包括支援センターへ相談に行けない人、現状の改善の為に何をどう相談すれば良いかわからない人もいます。

支援の輪を広げていくためには、更にきめ細やかな対応が必要であり行政と協働して、市民の方々が住み慣れた場所で、家族と共に、その人らしく療養生活が送れるような在宅医療の確立のために努力していきましょう。

在宅医療支援センターの益々のご発展と、すみれ通信が各団体と市民一人ひとりとの強い架け橋になることを期待します。おめでとうございます。

### 初代センター長 飯塚健児



すみれ通信100号記念おめでとうございます。在宅医療支援センターが平成27年6月に開設して8年が経過しました。その時私は副会長で在宅医療支援センター長をしていました。当初は何ができるのか？何から手を付ければよいのか？色々と会議を重ねていき、少しずつ前に進んでいきました。

その後、木原副会長、黒坂さん、本間さんを中心に多職種連携や講演会等々、積極的に行動してきました。コロナ禍で行動が制限されてしまいましたが、すみれ通信などを中心に在宅支援の情報を発信してきました。(継続は力なり。)素晴らしい事です。

今年は大変な猛暑でした。家から出ない人が多く、歩けない、転倒しやすい等々筋力低下がみられました。又、線状降水帯により大きな被害がでました。これからは災害対策についても考えなければなりません。

木原副会長含め4人がいるので心配はないと思っています。これからも頑張ってください。

### 第2代目 センター長 小林邦芳



「すみれ通信」は在宅医療支援センター(以下支援センター)と同一年です。支援センターは平成27年6月に開設され、すみれ通信の第1号発行が同年7月1日です。以来毎月欠かさず発行を続けて100号を迎えられた支援センターの皆様には本当に脱帽です。

初代センター長の飯塚先生を引き継いで2代目のセンター長を務めさせて頂いた私は、むしろ支援センター立ち上げ前に深くかかわっていました。当初は在宅医をそして協力医を如何に増やすか、その為には何をすればよいのかを模索しておりました。

晴れて支援センターが開所し、この「すみれ通信」は在宅医療の裾野拡大、多職種連携の為に重要な役割を担い、更に情報発信のツールとしての側面も併せ持つ等内容を充実させ成長を続けています。また支援センターの足跡を知る上でも「すみれ通信」は欠かせません。「すみれ通信」の歩みはまだまだ続く事でしょう。

### 第3代目 センター長 酒井辰彦



この度は100号発行おめでとうございます。私は2019年7月から2021年6月まで担当副会長として在宅医療支援センター長を務めさせて頂きました。

介護保険も無い数十年前から往診に従事してきた医師としては近年在宅医療や施設等のシステムが整い、従事する先生、看護師、各種職員の皆様が地域で増加してきた事は嬉しい限りです。

又センター職員の尽力もあり研修会を通じて職種を横断した連携も深められたと自負しています。ただ在職中には何と言ってもいわゆるコロナと言う新興感染症の発生に伴う社会、医療、介護現場の変動と混乱と言うアクシデントがありました。ありがたい事に現在では、関係者の皆様の努力のおかげで生命の危機という観点では、比較的落ち着いた毎日を取り戻せています。今後も支援センターの発展と関係者皆様のご健勝を祈っております。

### 第4代目 現センター長 木原明子



令和3年7月より、在宅医療支援センター長をさせて頂いておられます木原です。

平成27年6月に在宅医療支援センターが開設された時、医師会の在宅医療担当理事でしたが、病院を退院した後、自宅に帰ったが介護の準備ができておらず困ることや、訪問診療を受けたいが方法がわからないなど様々な課題がありました。

在宅医療支援センターがスタートし、コーディネーター(看護師)がエンジンとなり、課題に臨んでいきました。すみれ通信は、センターと多職種を繋ぐため、研修会の予定や報告、在宅医療に携わる多職種スタッフの紹介等を載せ、コミュニケーションツールの役割を果たしてきました。顔の見える関係や情報共有がとても大切だと思います。ICTを利用して個人情報を守りながら個々の患者さんの情報を多職種で共有し繋がることも。コロナ禍で3年以上できなかった地区別懇談会が9月2日やっと再開できました。多職種の輪が広がりますように。

# 令和5年度 「在宅医療・介護連携」多職種研修会 地区別懇談会開催報告

日時：9月2日(土) 14:00~16:15  
 場所：藤沢市医師会館  
 対象：市内全域  
 テーマ：コロナ禍で困った事、変わった事

方法：ワールドカフェ方式 (6名で8グループ)  
 参加者：48名  
 まずそれぞれの職種の立場からお話しして頂いた

- ・医師の立場から：いしい内科医院 石井由佳先生
- ・薬剤師の立場から：ベル薬局 市川瑞枝氏
- ・ケアマネジャーの立場から：ふらっと 一戸香織氏
- ・訪問看護の立場から：タツミ訪問看護 須藤美也子氏
- ・地域包括支援センターから：六会包括 清水聖子氏

職種	数
医師	11
歯科医師	0
薬剤師	8
看護職	12
介護職	3
歯科衛生士	0
社会福祉士	4
事務職	3
ケアマネジャー	5
PT、OT	1
未記入	1

参加状況	数
初回	23
2回目以上	25

顔の見える関係性づくりはできたか	数	初回参加	2回目以上
とても有効	34	15	19
まあまあ有効	12	6	6
あまり有効でない	1	1	
有効でない	0		
未記入	1	1	

グループワークで話し合えたか	数	初回参加	2回目以上
十分できた	21	8	13
まあまあできた	25	13	12
余りできなかった	2	2	
全くできなかった	0		

関係性づくり参考になったか	数	初回参加	2回目以上
十分だった	26	11	15
まあまああった	18	8	10
余りなかった	3	3	
全くなかった	0		
未記入	1	1	

### 【ご意見の抜粋】

- ・顔が見える形での情報交換ができる機会が減っていたので、直接話が出来て距離が近くなった。
- ・久しぶりの顔の見える多職種連携だったので、楽しめた。
- ・日々の業務ではお会いすることはないが、患者さんを交えて携わっている職種の方々の顔が見えて分かりやすかった。
- ・話し合うことでそれぞれの職種の大変さが身に染みした。マイナス面は時間が足りなかった。
- ・色々な職種や所属の方のお話が聞けて今後の関係性づくりの参考になった。
- ・それぞれの苦勞が、事情がうかがえた。
- ・普段ゆっくりお話しできる機会がなかったのでお話しできてとても有意義な時間だった。
- ・1時間半あつという間だった。いろいろな方と関わらせていただけて良かった。
- ・ワールドカフェ方式楽しかった。20分ごとにテーブルを変えることがとても面白かった。



## 開業から半年が過ぎて

藤沢ガーデンクリニック 高木 剛

昨年11月それまで勤めていた医療法人悠慶会湘南藤沢心臓血管クリニックの分院として藤沢駅南口に藤沢ガーデンクリニックが開院し、院長に就任しました。

まさしく晴天の霹靂ではありましたが自分にとってはチャンスであると捉え二つ返事で受諾したお話しでした。いざ診療が始まってみると来院して下さる患者さんは1日1桁台が殆ど、12月に発熱外来を行うようになって漸く2桁となる日もありましたが、コロナの第8波が収束する頃には再び1桁台に落ち込みました。

新規参入であるにしても、クリニックにとって集客がこれほど大変なことであるとは、浅はかにも全く想定外なことでした。自分の家族や辞めずに頑張ってくれているスタッフ達のためにも何とかしなければならぬ。来てもらえないのであれば来院できないような方のもとへこちらから行けばよいと、前勤務先でもおこなっていた訪問診療を始めることを決意しました。

ただ勝手に決めたところですがすぐに患者さんが契約してくれるはずもなく、近隣医療機関へのご挨拶から始めました。そこで今更ながら思い知らされたことは、医療は信頼関係がないと成り立たないということです。

とりわけ24時間365日対応が義務化されている訪問診療についてはなおさらです。そのためには一つ一つの積み重ね以外他にありません。最近はおそらく9割以上の方がインターネット等で自身の病状について調べてから受診され、独自の見解を持っておられます。

日本医師会が発行している『医の倫理綱領』8ページ(2)人格の尊重で以下のように書かれていますので抜粋してご紹介します。

「患者の望む治療法を医師として受け入れられない場合には、医師は自分の考えを十分に説明したうえで、患者の考えに同意できないことを伝え、可能であれば他の医師に紹介するべきである。いずれの場合にも、医師と患者が互いの人格を認め合い、接することが大切である」

私は日本史特に戦国時代が大好きで、とりわけ轟川の武将は備前岡山の宇喜多秀家さんです。大恩に報いるため関ヶ原で西軍に与しましたが、不運にも敗れ八丈島に流罪となりました。前田利家の四女豪姫が正室であったこともあり、江戸時代を通じて260年余り加賀藩は八丈島の宇喜多一類に継続的に支援をし続けたそうです。

金沢大学出身の私にとってはとても誇り高い話です。1981年に放映された時代劇『関ヶ原』で三浦友和さんが秀家さんを演じておりましたが、私にはそのイメージしかありません。とにかく格好いい。

私も皆さんにとって宇喜多秀家さんのような武将、ではなく医師になりたいと常日頃思っています。

これからもどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

